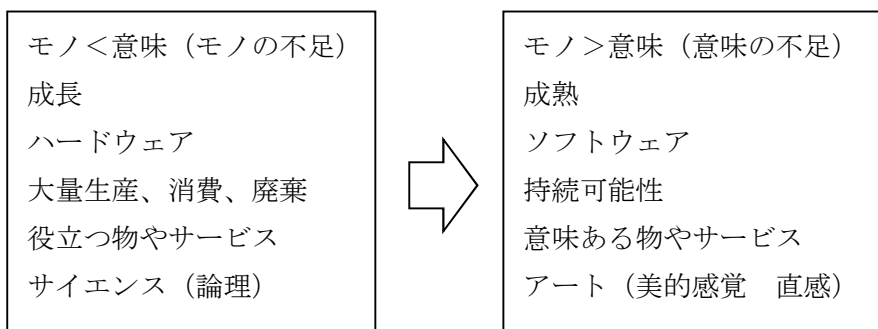




ふくろう通信では、世界を鳥の目で俯瞰し、教育を中心に「すぐには役に立たないけれど長く役に立つ」話題を取り上げていきます。今回はまず、教育界を取り巻く時代の大きな変化と価値観の変容についてお伝えします。

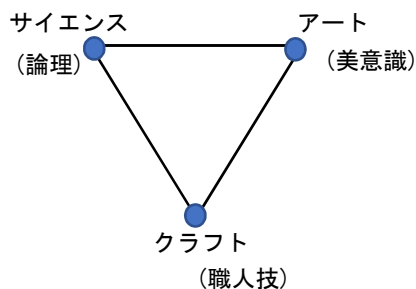
戦後、日本は生産工程を精緻に見直し無駄を省くカンバン方式やKAIZENに代表されるようなクラフトの力で、最貧国から一気に経済の坂道を駆け上ります。バブル絶頂期にはNTT1社の時価総額でドイツの全ての株が買えたというのは有名な話です。日本式経営や教育は世界に注目されました。しかしその後、市場の競争激化に伴いサイエンス（論理）で市場分析し、戦略を練るアメリカ式経営が主流になります。問題解決を提供するコンサルや経営学博士（MBA）取得が全盛となりますが、日本の教育界は課題解決できる人材育成に遅れを取ります。その後も、世界にモノが行き渡るにつれて、市場の競争は激化の一途をたどりますが、AIを初めとしたテクノロジーの進化もあいまって、既にサイエンスに基づく課題解決策（How to）は巷に溢れ、陳腐化しつつあります。そのような中、新たに注目されているのが、未来を構想して新たな価値を生み出すアート（美的感覚 直感）の力です。以上のような価値観の変化は教育にも変化をもたらします。ということで、今回は価値観の変化が教育にもたらす影響についてお話しします。

## 物質的豊かさが実現された後の価値観の変化

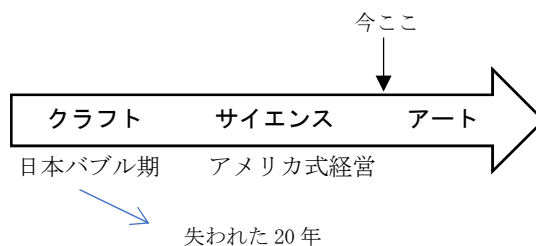


この変化は人類史上初、近代の終わりの始まり？

## 経営の軸



時系列で軸の変化を見ると



## ミネルバのフクロウは黄昏に飛び立つ ヘーゲル

「ミネルバ」はローマ神話に出てくる女神で知性を象徴しています。「フクロウ」はミネルバの遣い、「黄昏」は一つの時代の終わりを指しています。意識すると次のようになります。

「ミネルバのフクロウは一つの時代が終わる時に飛び立ち、世界の知識を集めて新しい時代の知恵を開く」弁証法で有名なドイツの哲学者、ヘーゲルの言葉です。本誌の話題は、時代の変化と新たな教育観ですから、ジャストフィット！ という訳で「ふくろう通信」の命名となりました。

## 参考図書

### 「世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか」

～経営におけるアートとサイエンス～ 山口周



今回のふくろう通信は本書をベースにしています。

### 「リーダーシップ 3.0」

～カリスマから支援者へ～ 小杉俊哉



時代とともに求められるリーダー像も変わっているという話。分かりやすさが気持ちよい。

### 「13歳からのアート思考」

～自分だけの答えが見つかる～ 末永幸歩



美術の先生の間で話題沸騰とか。美術は思考力を育てる教科なのです。

### 「グレートリセット」

～世界経済フォーラムで語られるアフターコロナ～

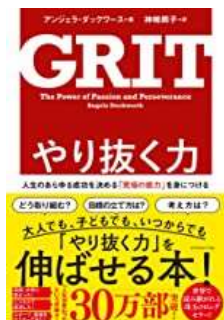
クラウス・シュワブ



コロナ禍が変化を加速する。世界はもう元には戻らない。世界のリーダーによるダボス会議の話題

### 「グリッド（やり抜く力）」

～人生の成功を決める能力～ アンジェラ・ダックワース



科学的な調査手法でやり抜く力の有効性を明らかにして話題に。でも反論も提出されています。

### 「教師崩壊」

～先生の数が足りない 質も危ない～ 妹尾昌俊



教師を応援してきた筆者による厳しい提言。教育界は変わらなくては行けない。妹尾さん逗子にお住まいです。